

広島県尾道南高等学校 第3回学校運営協議会 会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和6年10月30日	開催場所	長江公民館 会議室
出席委員	<p>人数：6人</p> <p>委員氏名（役職）[順不同・敬称略]</p> <p>高坂 学（元尾道南高等学校長）</p> <p>緋田 節子（元尾道市長江女性会会長）</p> <p>杉田 眞一（尾道市長江公民館長）</p> <p>中司 博之（尾道南高等学校スクールソーシャルワーカー）</p> <p>細谷 博美（尾道南高等学校PTA会長）</p> <p>浅藤 直幸（尾道南高等学校長）</p>		
会議の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会挨拶、広島県尾道南高等学校からの近況報告（校長）</li> <li>2 配布資料の確認・全体概要説明（教頭）                  ※本校参加者：小田康晴教頭、寺岡俊幸事務長、木村和也総務保健主任、岡淳太郎生徒指導主事、屋敷太郎進路指導主事</li> <li>3 令和6年度 自己評価シート（中間評価）について                  各分掌主任が、アンケート調査資料等を用いて根拠理由を説明した。</li> <li>4 令和6年度 自己評価シート（中間評価）に対する委員様よりの主な意見                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価の分析では、学校適応感尺度（アセス）とクロスした分析によって、個々に分析するよりも、より一層生徒の実態をつかみやすくなる。</li> <li>・生徒の学習歴（学校・家庭）が多様化している中、一人もおいていけない授業を継続して行うには、支援員の数を増やす取組が必要ではないか。</li> <li>・数値の分析はもちろん必要だが、資料が難しくなり分かりにくい。係わっている生徒の生の声を資料に載せないと問題点が見えてこない。</li> <li>・社会にスムーズにつなぐためにも、進路情報の提供は早期から行い、多くの選択肢を提示する必要がある。身近な先輩の生の声を聴く講座（20分程度）があれば、将来の姿をイメージできる。他の定時制高校の成功例もあるため、尾道南高等学校でも計画してみてもどうか。</li> </ul> </li> <li>5 協議・意見交換                  令和6年度自己評価シート（中間評価）は、承認された。</li> <li>6 閉会挨拶（校長）</li> </ol>		
次回開催予定日	令和7年2月（詳細は別途調整）		